

## Instruction Bulletin

### 取扱説明書

# 3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルム 型板・すりガラス用フィルム

#### 【適用範囲】

本書は以下の3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルムに適用します。

- ・ DC000
- ・ DC001
- ・ DC002

#### 【施工】

施工手順・方法は一般的な3M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルムの手順とは大きく異なり、水貼りではなくドライ貼りになります。以下の手順をしっかりとご確認のうえ、施工してください。

#### 1. 事前確認

本製品は平滑面ではない型板ガラスやすりガラスなどの凹凸面に貼付け可能ですが、その他の事前確認事項(熱割れ計算、フィルム初期品質、外貼りではない、高温高湿環境ではない)は通常フィルム同様にご確認ください。また、フィルムを貼ることで目隠し性が変化する場合があるため、剥がせるサイズの小面積でサンプル施工を実施し、確認ください。

#### 2. 事前準備

スキージーは一般のゴムスキージーではなく、滑り性の良好なフェルトテープ等を貼ったプラスチックスキージーをご用意ください。クッション性のあるフェルトテープを貼ることで凹凸面に追従しやすくなり密着性を良好にします。プラスチックスキージーの幅は100mm程度がお勧めです。

#### 3. 防水養生

ドライ貼り施工ですが、十分な清掃を行うため、通常通りの防水養生をしてください。

#### 4. ガラスの清掃

表面が凹凸面のため通常のようにスクレイパーを使用できませんが、飛散防止性能を最大限に発揮するためにガラス面を十分に清掃していただく必要があります。

- ① まず、施工面全面に中性洗剤入り洗浄液を噴霧し、スポンジで清掃してください。特に凹み部分に溜まった汚れをしっかりと除去してください。
- ② その後、真水で洗浄液を洗い流し、軽くキッチンペーパー、タオル等(繊維の出にくい、汚れていない清潔な布類)で拭き取ってください。この時、表面に洗浄液成分が残っていると密着性が低下しま

すので、もしも十分な水で洗い流せない環境の場合はアルコールでしっかりと拭き取ってください。

- ③ 拭き取り後、乾燥が十分ではない場合にはドライヤーの冷風で乾燥していただく等してから施工してください。

#### 5. ガラスサイズの測定とフィルムカット

ガラスが凹凸面のためエッジカット時にカッターの圧力調整が難しいことと、厚い強粘着剤を使用しているため、エッジカットをする際、端部への糊残りやはみ出しが発生する可能性がありますので、本製品はガラス上でのカットではなく、4辺プレカットを推奨します。

#### 6. フィルムの貼付け

- ① まず、ライナーを剥がす前に高濃度の施工液で指を濡らしてください。粘着剤が強粘着で柔らかいため一旦指紋がつくと目立ちます。特に DC000 はご注意ください。
- ② 上部 50mm 程度ライナーを剥がして、剥がしたライナーを折り曲げます。
- ③ ライナーを剥がした部分で位置合わせを行い、クッション材付きプラスキージーで軽く左右に動かし圧着します。
- ④ ライナーを 50mm 剥がして圧着という上記の②と③の作業を繰り返します。
- ⑤ 最後まで貼り終えたら全体のムラをなくすように、再度プラスキージーを上部から下部へ軽い力で左右に動かし 2 回圧着します。

※ムラを作らないポイントは軽く均等な力で圧着していくことです。1 回目は表面を撫でるように軽く圧着し、2 回目、3 回目と回を重ねるごとに強く圧着してください。軽い力でも繰り返し圧着することでムラなくしっかり密着します。

#### 7. 点検と清掃

本製品は水貼り施工ではないため、あらためてフィルム表面を洗浄する必要はありません。

### 【注意事項】

基本的な注意事項は 3 M™ スコッチティント™ ウィンドウフィルムに準じます。

### 【製品に特有の注意事項】

- 施工後のフィルムを剥がすことは出来ませんが、施工環境や経時によりガラス表面に粘着剤が残る可能性があります。

### 【一般的な注意事項】

- 同一ロットの使用： ロットにより色柄に多少の差異が生じることがあるので可能な限り同一ロットを使用してください。
- つなぎ合わせ（スプライス）の注意： 製品の中方向（左右）で色差が生じることがありますので、同じ側の端部が突き合わせになるように貼付（テレコ貼り）してください。

### 【製品選定に関する注意事項】

- 熱割れについて： フィルムを貼付することでガラスの中央部の温度が上がる場合があるので、施工環境によってはガラスが熱割れを起こすことがあります。フィルムの施工前に必ず熱割れ計算を行って、熱割

れの可能性を確認してください。

- ガラス以外の基材へ施工について
  - ガラス以外の基材への施工： フィルムはガラス基材に施工することを前提とした製品設計になっており、光学特性、接着力、耐候性等の各種評価もガラスに貼付した状態でしか実施していないため、基本的にはガラス以外の基材への施工はおすすめしません。ガラス以外の基材への施工は保証の対象外であり、施主、及び施工者の判断でお使いいただくこととなります。
  - フィルム上への施工（重ね貼り）： ガラスに既にフィルムが施工してあり、さらにその上にフィルムを施工する、いわゆる“重ね貼り”はお勧めしません。フィルムの重ね貼りは保証の対象外であり、施主、及び施工者の判断でお使いいただくこととなります。
  - プラスチック基材への施工： アクリル板、ポリカーボネート板等のプラスチック基材は表面から気体が発生してフィルム施工後に膨れや剥がれが生じることがあるため、プラスチック基材へフィルムを直接施工することはしないでください。プラスチック基材へ施工する場合は、まずプラスチック用下地調整フィルム SH2CL-P を施工し、その上に貼りたいフィルムを貼付することをおすすめします。SH2CL-P は耐摩耗性ハードコートがないので前述の C) 耐摩耗性ハードコートなしの注意点をご参照のうえ施工してください。

### 【使用環境（施工場所）に関する注意事項】

- 建築用途  
本製品は、基本的に建築用途で想定される使用環境を考慮した製品設計、製品評価をしております。そのため、建築以外の用途でのご使用は保証の対象外となります。
- 直接フィルム面に日射が当たる環境
  - 本品は内貼り専用製品です。フィルム面に直接日射が当たった場合に十分な耐候性はありません。
- 結露環境
  - 原則フィルムのご使用はお勧めしません。
- 高温環境
  - 基本的に 65°C以下の環境で使用してください。ただし、スパンドレル部など、密閉空間で常に熱がこもりやすい場所への施工はフィルムの劣化が早まりますのでおすすめしません。
  - 常時 80°Cを超えるような環境でのフィルムのご使用はおすすめしません。80°Cに近い恒温環境への使用を検討される際には、当社へお問い合わせください。

### 【施工に関する注意事項】

- 施工時の温度環境
  - 推奨温度： 20°C～38°Cです。
  - 最低温度： 5°C以上の環境で施工してください。フィルムからの水抜け性が悪くなったり、施工後に粘着力が上がらず、フィルムがずれてしまうことがあります。
- 施工時の直射日光： 直射日光が当たっていると施工液が乾燥しやすく気泡が残りやすくなるのでご注意ください。
- 施工治具の確認
  - スキージー： 傷やへたりのないこと、またゴムが硬化していないことを確認してください。スキージング不足やむらの原因になります。
  - スクレーパー： 刃に傷、欠け、さび、異物付着がないことを確認してください。ガラスの傷を生じさせる原因となります。
- 剥離フィルムの浮き、剥がれ（ポップオフ）
  - ポップオフの発生： 剥離フィルムが粘着面から部分的に浮いたり、剥がれたりすることをポップオフといい、カットしたフィルムを小径に巻くと起こることがあります。
  - ポップオフの影響： ポップオフ発生後、直ちに貼付すれば問題ありませんが、ポップオフが生じたまま放置すると、フィルムを貼付後、剥離した部分が跡になって見えることがありますのでご注意ください。

- 同一製品ロットの使用
  - 製品ロットにより色調に差異が生じることがあります。
  - フィルムを隣接して貼付する場合は、原則として同一ロット製品を使用してください。
- シーリングを使用する場合
  - フィルムがガラスの加重を担うことができないので、必ずガラスとシーリングとが直接接着する構造を確保してください。フィルムにシーリングをする場合は、あくまでも付加的な形でご検討ください。
  - フィルムとシーリング界面に継続的なせん断力がかかる場合、フィルムのたわみ・浮き、透過像のゆがみが生じる可能性があります。
  - 一部のシリコン系シーリング材の使用により、粘着剤の端部が黄色く着色する場合があります。

### 【使用上の注意事項】

- フィルム表面に硬いものが接触しないようにしてください。表面に傷がつくことがあります。
- フィルム表面にステッカーやシールを貼ったりマジックなどで書いたりしないでください。

### 【輸送・保管】

- 保管環境： 高温・高湿と直射日光を避け、0～38℃以下の暗所に保管してください。短時間であれば、多少の厳しい条件でも使用は可能ですが、変色、やけ等の外観変化や性能劣化が早まる可能性があります。
- 使用期限： ご購入後1年以内に使用してください。
- 保管方法：
  - ゆるみがないように巻いておく： 使用後のフィルムロールはゆるみがなくなるようにしっかり巻き締めて、端をテープで止めてフィルムがほぐれてこないようにしてください。フィルムの巻きがゆるいまま保管すると、剥離フィルムの浮き・剥がれ（ポップオフ）が起こり、そのまま放置すると、フィルムを貼付した時に剥離した部分が跡になって見えることがあります。
  - ポリ袋に入れる： フィルムロールは専用のポリ袋に包み、開封前と同様の状態で保管してください。湿気を防止することで、製品の劣化を抑制します。
  - 宙ぶり保管： フィルムロールはロールの両端にキャップを取り付け、必ず宙ぶりの状態で専用の梱包箱へ入れて保管してください。宙ぶりの状態でない場合、フィルム表面に荷重がかかり、表面の傷やしわ等、外観不具合の原因となる可能性があります。一つの箱に複数本のロールを入れる場合も、宙ぶり状態にできなくてはなるので、必ず一本のフィルムロールを一つの箱に収納してください。
  - カット済みのシートの保管： フィルムロールからカットしたフィルムは、その都度使い切るようにしてください。シート状で保管すると、外観不具合や性能劣化の原因となる可能性があります。

### 【清掃／メンテナンス】

- フィルム表面の汚れ： フィルムの性能を維持するために定期的に清掃を行ない、フィルム表面に汚れが付着したままにしないでください。
  - 汚れの種類によってはフィルムの劣化が早くなる場合があります。
  - 汚れの種類によって日射吸収率が高くなり、熱割れを起こす可能性があります。
- 清掃時の注意点
  - ガラス用のゴムスキージーで水洗いするか、あるいは柔らかい布で水拭きしてください。
  - 外貼り用のフィルムの場合は、必ず事前に多量の水で砂やほこりを除去してから上記の清掃を行ってください。
  - 以下は表面を傷つけるおそれがあり厳禁です・
    - ✓ 乾拭き
    - ✓ ブラシや研磨剤などの使用

### 【廃棄】

本製品の主素材はポリエステル系樹脂です。自治体の法令／指示に従って廃棄処分してください。

- 5 / 5 -

製品の仕様及び外観は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。本書に記載してある事項、技術上の資料並びに勧告はすべて、当社の信頼している実験に基づいていますが、その正確性若しくは完全性について絶対的な保証はしません。使用者は使用に先立って製品が自己の用途に適合するか否かを判断し、それに伴う危険と責任もすべて負うものとします。売主及び製造者の義務は不良であることが証明された製品を取り替える及び本書記載の保証の提供ことだけであり、それ以外の責任はご容赦ください。本書に記載されていない事項若しくは勧告は、売主及び製造者の役員が署名した契約書によらない限り当社は責任を負いません。

3M、Fasara、ファサラ、Scotchtint、スコッチティントは、3M社の商標です。



スリーエム ジャパン株式会社

© 3M 2020. All rights reserved

IB-CSDWF-004-01

2020/7/29